

令和6年度 延岡市旭小学校 学校評価書

4段階評価 4 よくあてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

	評価指数	自己評価	関係者評価	学校関係者の評価コメント	学校の自己評価及び関係者評価に対する今後の対策・方針
学校の取組に対する評価	1 教育目標の共有	4	4	○「学校だより」や「旭小ブログ」で毎日学校での取組や、児童の様子がよく理解でき、共有が図れていると感じる。	○ 今後も教育目標や方針については、学校だよりや各学年・学級通信、ホームページ等で随時発信することで、しっかりと共有してきたい。
	2 学力向上の取組	3	3	○相互参観また、はげまし隊の皆さんの協力を通して今後も、授業改善を行い学力向上に取り組んでいただきたい。特に、外国語の授業を参観するかぎり、児童がスキルUPしているように感じる。	○学年部内での相互参観等を通して授業改善を行っていくとともに、授業の中で習熟の時間を確保し、基礎基本の定着を目指す。 ○はげまし隊の協力も得ながら、きめ細やかな学習指導を行っていく。 ○学期末にスキルアップ週間を設け、基礎基本の定着を図る。
	3 豊かな心をもつ子どもの育成	3	3	○豊かな心をもてる児童の育成の一助として、様々な場面で、地域の方々（高齢者）との交流の場やキャリア教育の接触的な取組を更に拡大できるとよい。	○道德の時間や体験活動を充実させるとともに、各学年年間1回以上は、外部講師を招聘したキャリア教育に関する授業を展開し、キャリア教育の充実を図る。 ○地域の自然、文化、伝統に触れさせる教材を通して、豊かな心を育む教育を充実させる。
	4 いじめや差別のない人間関係づくり	3	3	○難しい課題ではあるが、いじめや差別があってはならない。登校時の見守り立ち番をしていると児童の表情で察知する事がある。昨年は泣いて登校する児童も見かける時があったが、今年は見かけなかった。言葉によるいじめもあるので日々の観察、指導をお願いしたい。	○毎月行っている悩みアンケートや日々の児童観察、学期1回の教育相談をはじめ、全教育活動を通して、いじめや差別意識をなくす取組を充実させる。 ○月に一回、情報交換の場を設けることで共通理解を図り、指導にあたる。
	5 体力向上の取組	3	3	○寒い中でもグラウンドに出て仲良く遊んでいる姿を見ると、元気な子どもが多いと感じる。 ○今山神社へのウォーキングなど長距離を歩く機会も体力向上には効果があるのではないか。	○体力テスト結果の分析に基づいたスクールスポーツプランに沿って、体育科学習等で体力の落ちている内容について指導を充実させる。 ○本校の課題である持久力向上に向けて、体育の授業での3～5分間走、縄跳び運動など全校で取り組んでいく。
	6 学校の感染症対策	3	3	○コロナ、インフルエンザ等の症状による感染症が多発する中、旭小は養護教諭をはじめ先生方の指導により比較的安全防止ができていていると感じる。これからも早期発見処置（保護者を含め）をお願いしたい。	○今後も、感染症対策に関する保護者への啓発を保健だよりやメール等を活用して積極的に行っていく。
	7 給食指導等食に関する指導	3	3	○食事の献立により好き嫌いの児童もいると思うが、楽しく食事ができることがなによりだと思う。	○望ましい食生活・食習慣の定着を図るために、全職員による給食指導の充実及び栄養職員と連携した食育の授業実践と指導の充実を図る。
	8 保護者・地域との連携	4	4	○防災面での連携など、地域との連携は評価できる。 ○児童や保護者とスクールガード（安全ボランティア）の皆さんとの懇談の機会を計画していただきたい。	○今後もコミュニティスクールの推進や、PTA、学校安全ボランティア、はげまし隊等との連携を充実させ、学校・家庭・地域が一体となって、児童の健全育成、学校の教育目標の実現に向けて取り組んで行く。 ○保護者と安全ボランティア、職員との意見交換ができる場を検討していく。
子どもたちに対する評価	9 授業中の学習態度	3	3	○授業を参観して、特に1年生の成長には感嘆する。各教室とも、先生の話をよく聞き、回答、質問を述べている。	○1分前着席・チャイム黙想を徹底し、落ち着いて学習に取り組めるようにする。 ○児童の実態を指導者がしっかり把握し、ICT機器やドリル、ワークシートなども活用しながら、児童の実態に応じた授業づくりを行っていく。
	10 家庭学習の取組	3	2	○家庭学習のやり方が分からない児童もいるので、学習のやり方を示ことで児童が取り組みやすくなるのではない。また、家庭学習の大切さを保護者へ随時発信できるとよい。	○今後、メディアコントロールを指導しながら、ICT機器（タブレット）による家庭学習も取り入れていく。 ○宿題の確認を可能な限り行う。また、必要に応じて宿題等の模範解答を配付する。 ○より良い自学のやり方などを提示することで、児童が家庭学習に取り組みやすくする。
	11 読書	3	3	○PTAによる「読み聞かせ」（むいくまむ）等により、家庭と連携しての児童の読書への意欲が図られている。ホームページで読書に関する動画が紹介されているのをみても学校の熱意が伝わる。	○朝の読書の時間や読み聞かせ（むいくまむ）、週末読書等を通して、家庭と連携した家読等の取組を継続し、児童の読書意欲を高めていく。（週末読書については、生活カードなどに読書欄を設ける。）
	12 笑顔で明るいあいさつ	3	3	○登下校時に自分からあいさつできる児童は少ないように感じる。学校内ではできて地域ではできないことは今後課題として取り組んでいけるとよい。	○家庭での生活習慣については、学級での指導、保健だよりや学校保健委員会、学級懇談等を効果的に活用しながら、今後も保護者と連携した取組を行っていく。
	13 思いやりのある言葉かけ	2	3	○下級生が転んで困っている、と上級生がすぐに駆け寄って助けている姿はほほえましい。 ○地域との交流をする機会を多く取り入れ、地域の皆さんと直接対話することで、あいさつの大切さや思いやりが芽生えるのではない。	○まず、教師等の大人が笑顔で明るくあいさつをする。また、あいさつの大切さや意味を児童に理解させ、家庭や地域と連携した取組を継続する。 ○SWPBSの取組や児童会等の話し合いを通して、「自ら進んで」あいさつができる児童を育成していく。
	14 きまりの順守	2	3	○登校時において通学経路は順守している。交通災害を考えた上での経路であることを今後も継続して児童に指導していく必要がある。 ○児童自ら通学路の危険箇所点検を行っているのも効果的である。	○全職員が共通実践事項を確実に、同じ温度で継続して指導していく。 ○学校のきまりを家庭にも示し、家庭と連携して指導していく。 ○定期的に、通学路の危険箇所の確認と安全な歩行の仕方についての指導を全校で行っていく。
	15 基本的な生活習慣	2	2	○基本的な生活習慣については、各家庭の考えがあり改善していくのは難しいと感じるが、児童の評価だけ高評価であるところに課題を感じる。 ○物を大切にす習慣を身に付けさせるために、資源物回収を計画したらどうか。	○あいさつや返事、履物並べ、身の回りの整理整頓など、全職員が共通理解のもと指導するとともに、家庭や地域と連携した取組を継続する。 ○記名の日を設定して記名を徹底させ、物を大切にす習慣を身に付けさせる。
	16 楽しい学校生活	2	3	○学校が児童にとって楽しい場所だと思えるには、児童同士の人間関係や先生や友達に悩みを相談できる環境が大事である。一人一人の児童に寄り添う指導をお願いしたい。	○生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を意識した授業を充実させ、児童に学ぶ楽しさを味わわせる。 ○今後も、なやみ相談や日々の児童観察を丁寧に行い、児童に寄り添う指導や支援に努める。
	17 体力向上	3	3	○始業前に運動場で、いろんな道具を使い元気に大きな声あげ遊んでいる児童を見かけ、元気をもらっている。怪我をしないよう道具の使い方など指導するとともに、児童の体力向上に努めてほしい。	○道具の安全な使い方を各学級で具体的に指導するとともに外遊びの励行により、年間を通して元気に運動場で遊ぶ児童を増やし、体力の向上を目指す。 ○児童一人一人、体力向上に向けた目標を設定し、体育の時間等でその目標達成に向けた各種運動に取り組ませる。
	18 早寝・早起き・朝ご飯等の生活リズム	3	3	○11月の学校保健委員会での講演会は、6年児童と保護者が生活習慣について見直すことのできるよい機会となっていた。	○家庭での生活習慣については、学級での指導、保健だよりや学校保健委員会、学級懇談等を効果的に活用しながら、今後も保護者と連携した取組を行っていく。
	19 メディアコントロール	2	2	○乳児もしくは妊産婦からメディアコントロールについては考えていく必要がある。 ○学校、家庭でルールを確認しながら犯罪に巻き込まれないよう見守っていく必要がある。	○メディアコントロールについて、授業や学校保健委員会を取り上げ、家庭への啓発を行っていく。 ○メディアコントロール週間を今後も設定し、学校と家庭と連携して推進していく。
	20 児童の感染症予防の取組	2	3	○感染拡大を防止する上からも、手洗いうがいの習慣化が効果的である。	○手洗いうがいの習慣化を図るために、教師の声掛けを徹底していく。 ○保健委員会の児童が、実態調査や啓発活動を主体的に行い、課題を自覚できる手立てを考えていく。